HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学法学会記事・第二一巻第二号訂正
Description	雑報
Citation	北大法学論集, 21(3), 227-229
Issue Date	1970-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/27906
Type	other
File Information	21(3)_P227-229.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

雑　報

北海道大学法学会記事

○　昭和四五年一〇月二三日（金）午後一時半―四時半

「モスクワ国際歴史学会について」

報告者　矢田俊隆

出席者　約一五名

去る八月一六日から二三日までモスクワで開催された第一三回国際歴史学会は、参加国数四八、参加者四〇〇〇人（同伴者を除き学者だけでも三三〇〇人）という大所帯。ソ連から一三〇〇人、アメリカから一〇〇余人、フランスから二〇〇余人、西独・イタリヤから一二〇余人、東欧諸国（ハンガリー、ポーランド、チェッコスロバキヤ）からも多数という状況。日本からは、同伴者含めて一〇〇数十名（学者一〇〇名位）参加の由。二年前のチェッコ事件の余波が残り、イギリスやノールウェーは同学会国内委員会としては参加を拒否（個人参加のみ）、アメリカや西ドイツから相当数の学者が出席を取止めたようだ。ソ連は接待国として熱心に準備し、ホテル、バス、会場、盛大な開会式、学会内容目次・組織（古代、中世、近世、現代の分科会）、同時通訳（露、英、仏）、エクスカーション（学会とどちらに参加するか悩んでいた人もいた）等、大変力をいれていた。ただし出席者名簿が配布されたのは学会終了ま近だった。

学会の模様について、日本国内委員会が提案した、「アジア・アフリカの近代化におけるナショナリズムと階級闘争」というテーマが採用されたことは特記すべきで、西独のガイス教授はアフリカのエリートの実証的研究を、東独のマルコフ教授はA・A開発途上国の進路は社会主義以外ありえないという主張を、チェッコのパラート教授は社会主義の妥当性はそれぞれの地域のもつ特殊性を考慮すべきことを、日本の今堀教授は中国問題（日本問題を報告する日本の学者がいたらよかった）を、報告し、討議された。

現代史では、両大戦間の、ヨーロッパの社会主義運動、集団的安全保障、東・中欧のファシズムについて報告・討議あり。例えば東独のディール教授がレーニンの一〇月革命の世界史的意義を強調し、それを資本主義没落のエポック・メーキングな事件として把えると、西独のイェッケル教授が反対し資本主義・工業化の進んだ国では共産主義革命に対する反発が強かったことを述べ、ソ連の学者がコミンテルンの果した役割を強調すれば、西側の学者はファシズムを評価するにあたり、それが何故力をえたかという理由の究明が必要であることを主張する等、異なった情報源に基づく違った理論、過去・現在・未来に対する様々な解釈があることが浮彫りにされたようである。

また、日本のロシヤ史および日本史研究者とソ連の自国史および日本史研究者の交流の機会がもうけられ、それぞれの異なった

解釈の紹介や、情報の交換がなされ有益だった由。一九一七年の革命の日本への影響、封建制は何時はじまるか（ソ連では大化の改新が通説）、明治維新は未完成のブルジョア革命説（ソ連で通説）、戦後日本の農地改革にはソ連では一九五七年論争により一定の評価を与えるようになった、等の見解が紹介されたそうである。なおモスクワ大学の東洋学研究所八〇〇人のうち、大学院生二〇〇人、うち二〇人が日本部で研究をしている。

その他、エクスカーション等を通じてみた矢田教授の印象談を興味深く拝聴、討論はA・A諸国の国づくりにソ連・中国の社会主義が模倣されることがあっても、何故日本の近代化がモデルにならないか、ソ連の官僚制の問題など、「歴史の比較研究」（ブラック、内山・石川訳、近代化のダイナミックス、慶応通信、一九六八、参照）をめぐって示唆的な議論があった。

次号（第二巻第四号）予告

論説

Die rechtzeitige Beibringung der Aufrechnungseinrede
Kuniyoshi Kashiwagi

北海道大学教養部における「法学」の授業 (2)
——現場教師の全くの中間報告——
米倉明

修正主義論争以後の
ドイツ社会民主党リーダーの政治指導路線 (2)
——カール・カウツキーを中心として——
山本佐門

資料

「ロシア共和国相続法」邦訳
五十嵐清

第一次大戦下における社会主義運動 (1)
——ツィンメルヴァルト運動を中心に——
佐保雅子
成田博之

研究ノート

札幌市郊外地区（手稲）の政治意識調査 (2)
荒木俊夫

Ⅱ 戦後手稲における「政治」 (1)

総索引（第一巻—第二〇巻）

訂正（第二一巻第二号）

	誤	正
三〇〇頁上段 九行目	会社の(16)	関連して(15)
三〇九頁下段 一行目	あるから(12)	あるから(13)
三三七頁上段一八行目	そして	しかし